

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年11月19日(金)

## ◇ 修学旅行記①・行程編

小学校修学旅行で新幹線を移動手段にする学校は、市内で数えるほどになってきた。多くの小学校は「全行程・貸切バス移動」。旅行荷物があるため、保護者が送り迎えの必要があることを考えると、学校を集合場所にするだけで駐車場が確保できるのはよい。バス移動で乗り物酔い対応等の心配な面もあるが、児童に目が行き届くことで児童の安全が確保できる点など、バス旅行のメリットは多い。

そんな中で本校が新幹線を移動手段として利用してきたのは、おそらく児童数と旅行費用の兼ね合いだろう。チャーターバスでは、チャーター料金の児童頭割り代金がぼんと跳ね上がる。実際のところ、保護者に諸事情を説明し、チャーターバス旅行に切り替えることも考えた。けれども、最終的に新幹線利用を継続していこうと決めた。これは、去年の修学旅行引率から、「小規模校の列車旅行だからこそ学びの価値」を見出したことによる。

新幹線は、一昔前の修学旅行専用列車(車両)ではない。一般ダイヤの一般列車である。本校は総勢10人そこそこの小集団。他校が利用しない現状もあり、座席は一般利用者の中にぽつんと本校の小集団が入る、そんなイメージである。

しかも、コロナ禍にあって対面座席は禁止。(因みに新幹線の空調システムは、屋外と遜色ないほどの状況を保つ)乗車マナーを学ぶにはもってこいなのだ。

京都駅までは、時間にして1時間少々。車窓景色を楽しむのにもいい時間だ。さらに、高速列車利用で生み出された時間により、観光時間が十分に確保できる。

そんな中で、今年度は2つの点を変更して実施。三河安城駅までの移動方法はジャンボタクシーだ。

<昨年> 大門駅集合—愛環—岡崎駅—JR線—三河安城駅

<今年> 学校集合—ジャンボタクシー—三河安城駅

去年は帰路で苦勞した移動疲れも、無し。



集合場所は学校。これまでの大門駅なら、送迎に関わる道順や時間等で保護者の皆さんも気をもむところだが、学校なら全く問題なし。勝手知ったるいつもの道。学区内は信号もないから、すいすいすい。

全家庭の保護者が出発の式を見守ってくださった。中にはご両親。ありがたい。自家用車の駐車は、学校外の川沿いに。ご協力に感謝だ。これまでだったらそうもいかない。大門駅周辺のコインパーキングを利用するから、数百円かかる。往復だから、総額で1,000円前後×児童数(家庭数)。愛環とJR代金往復をこれに加えれば、「とんとん」どころか安く上がってしまうおまけ付きだ。

問題は9名の定員数。自分が乗り込むと定員数を超えてしまうため、自分は自家用車で三河安城駅へ。しかし、これも結果的に大正解。少々トラブルがあって三河安城駅に残ることになったが、自家用車のため職員に迷惑を掛けずに済んだ。

二つ目の変更点は、京都・奈良での移動を全行程マイクロバスに。

(※去年は1日目がジャンボタクシー、2日目が在来線と市内バス)

ジャンボタクシーは運転手がガイド役も担ってくれるが、説明は大人向け。ならばということで、当地ガイドの代わりに児童が事前学習で下調べ。マイクロバスで目的地のガイドを児童が担った。これが、なかなかよかった。



☞さらに23人乗り(補助席込み)のマイクロバスだから、ご覧のように観光バスよりもゆったり。密の回避も◎。

写真は最後部座席のH君から出された「目的地クイズ」の場面。

感心したのは、6年生のマナーのよさである。新幹線でも、移動バス内でも、もちろん観光地でも、ホテルでも。

宿泊ホテルのビュッフェスタイルの夕食で、騒がずにきちんと一列に並び、列を崩さずに行儀よくトレイに食べ物をよそう児童の姿を見て、マネージャーが感心して自分に声を掛けてきたほどだ。誇らしき6年生。

食事も黙食で、いつもの給食どおり。食べ終わった者は、すぐにマスク装着と徹底していた。そんないい子たちだから、神様にご褒美をくれた。 その②へ続く